

2025年6月16日

最近の長野県経済の動向 (月例調査)

お詫びと訂正 (2025年6月18日)

2025年6月16日に公表いたしました本調査につきまして、P 4・建設投資「新設住宅着工戸数の利用関係別寄与度（前年同月比）」のグラフの寄与度表示に誤りがありましたので、訂正後のグラフを掲載させていただきます。なお、本文中に記載の数値等に誤りはありません。

概 要

全国景気※	緩やかに回復しているが、米国の通商政策等による不透明感がみられる
長野県内景気	足踏みの状態にある
3月の生産動向	生産は一進一退で推移
4月の個人消費	乗用車新車販売は4カ月連続で前年を上回る
4月の公共投資	公共工事保証請負額は6カ月ぶりに前年を上回る
4月の住宅投資	新設住宅着工戸数は2カ月連続で前年を上回る
4月の雇用情勢	有効求人倍率は3カ月ぶりに前月を下回る

今後は、米国の通商政策の影響や、個人消費に影響を与える実質賃金の伸びが安定的にプラスで推移していくかどうか注視する必要がある。

※内閣府「月例経済報告(2025年6月)」より

照会先

一般財団法人 長野経済研究所 調査部

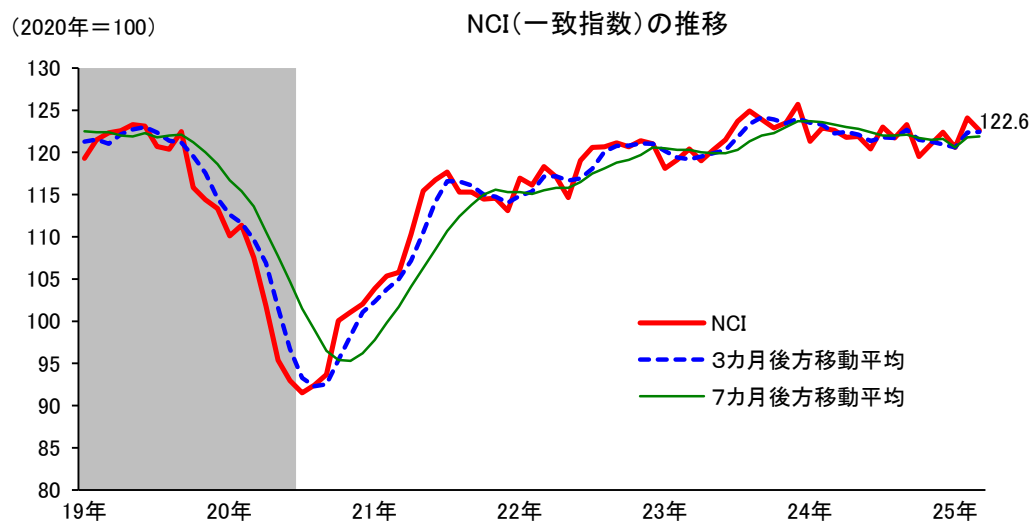
担当 桑井、須田

電話 026-224-0501



景気動向指数

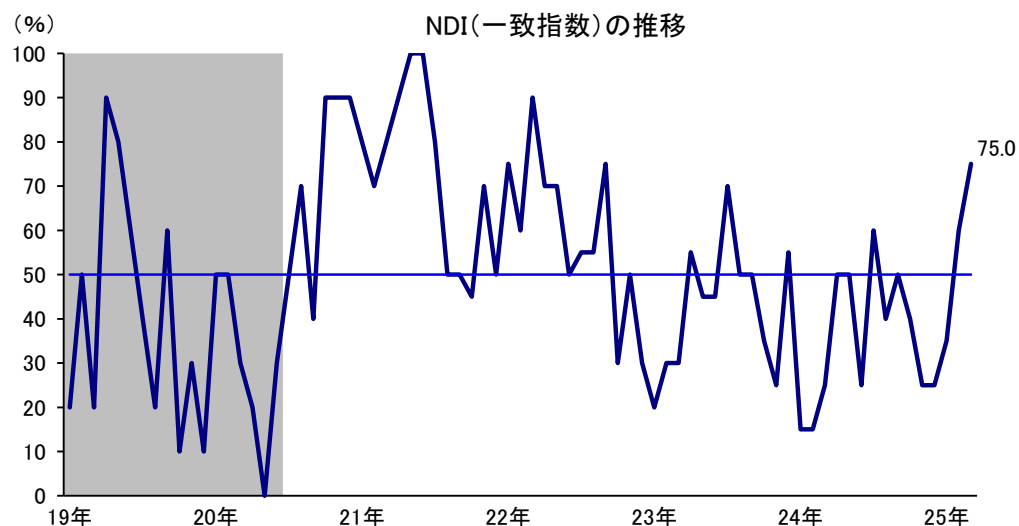
- ・3月のNCI(一致指数)は、122.6と前月と比較し△1.5ポイントとなった。3カ月後方移動平均は同+0.1ポイントと3カ月連続で上昇し、7カ月後方移動平均も同+0.1ポイントと2カ月連続で上昇した。NCI(一致指数)は、下方への局面変化を示している。
- ・NDI(一致指数)は、75.0%となり、景気判断の分かれ目である50.0%を2カ月連続で上回った。



(資料)当研究所「長野県景気動向指数」

(注) 1.NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ(量感)を示す

2.シャドー部分は長野県の景気後退期を示す



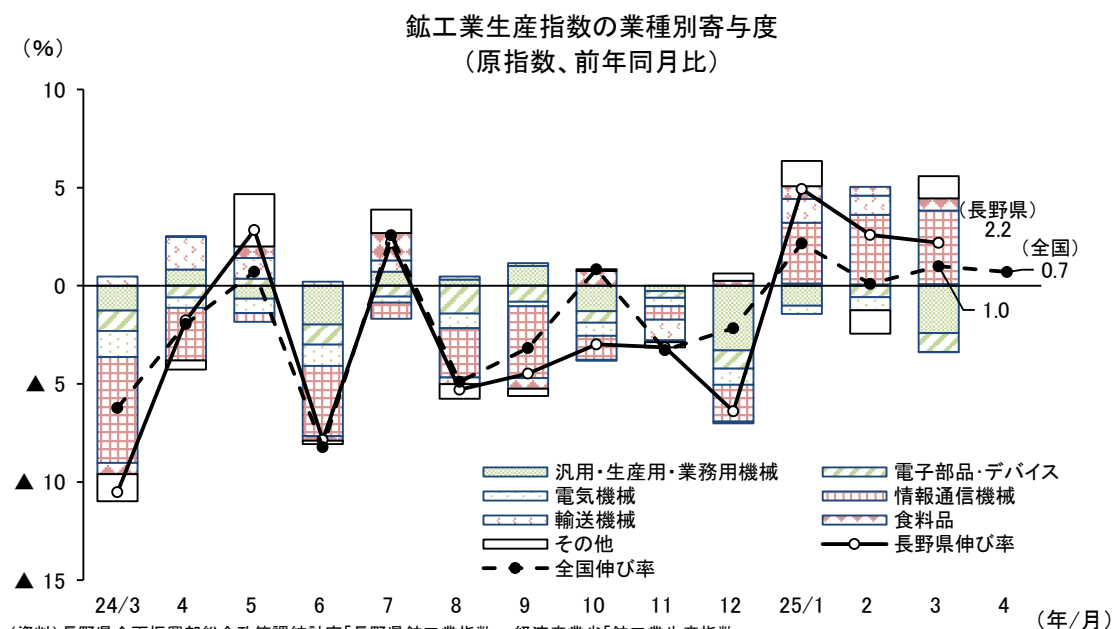
(資料)当研究所「長野県景気動向指数」

(注) 1.NDIは長野県の景気の方角、波及度合いを示す

2.シャドー部分は長野県の景気後退期を示す

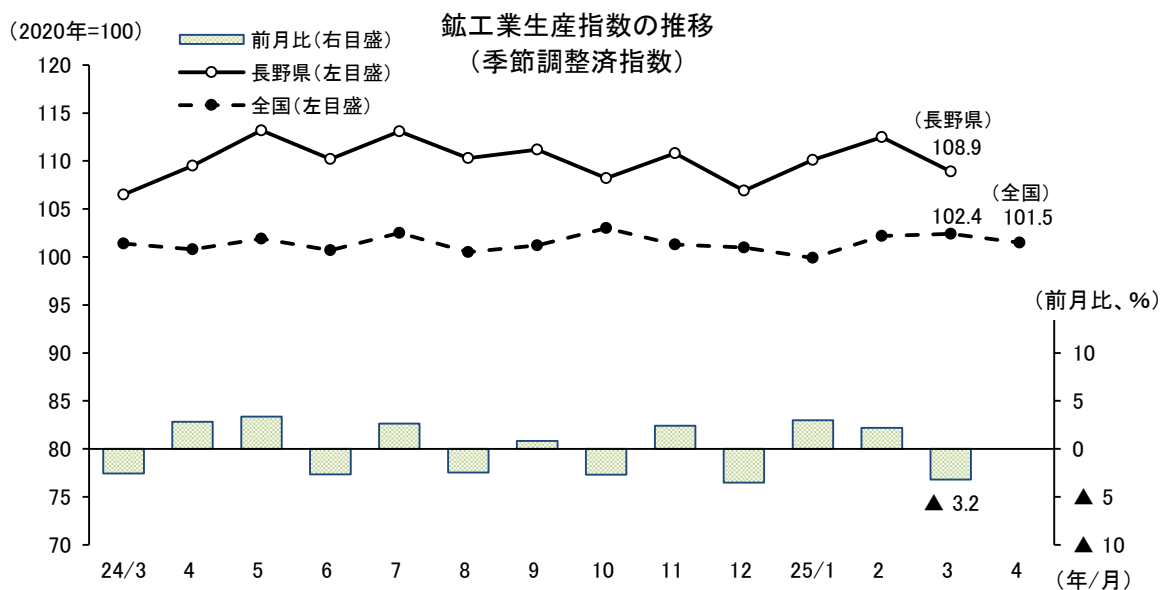
生産は一進一退で推移

- ・3月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比+2.2%、季節調整済指数が前月比△3.2%となった。
- ・季節調整済指数は3カ月ぶりに前月を下回った一方、原指数は3カ月連続で前年を上回った。前年に一部完成車メーカーの認証不正問題を要因とした生産停止などの影響により大きく落ち込んだことから、原指数はこのところ上昇幅は大きくなっている。ただ、中国景気の低迷やIT関連需要の弱さが続き、生産は一進一退で推移している。
- ・主要業種別にみると、「情報通信機械」「食料品」などが前年を上回ったものの、「汎用・生産用・業務用機械」「電子部品・デバイス」などが前年を下回った。



(資料) 長野県企画振興部総合政策課統計室「長野県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」

(注) 全国伸び率: 25年4月分は速報値



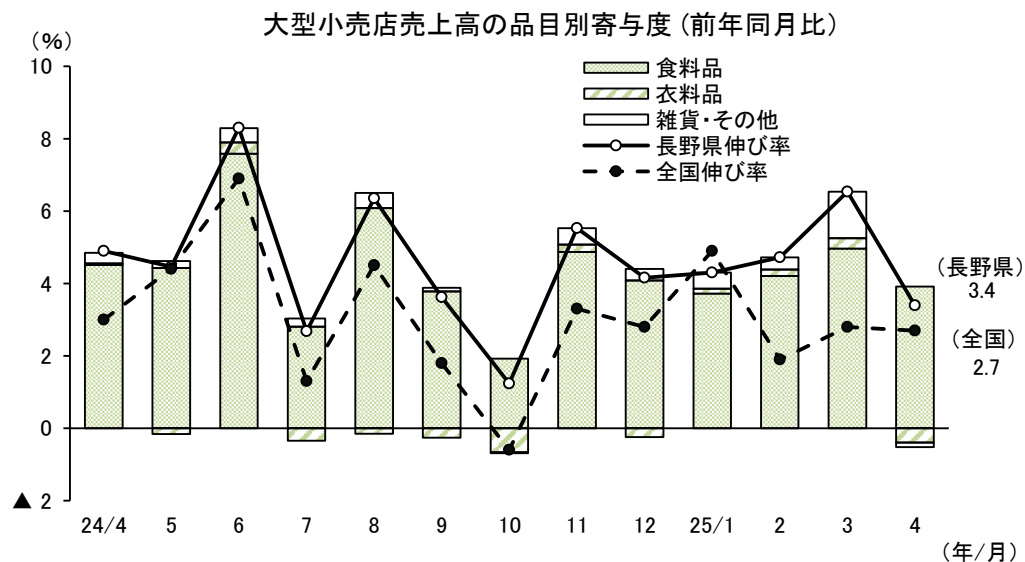
(資料) 長野県企画振興部総合政策課統計室「長野県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」

(注) 全国: 25年4月分は速報値

個人消費

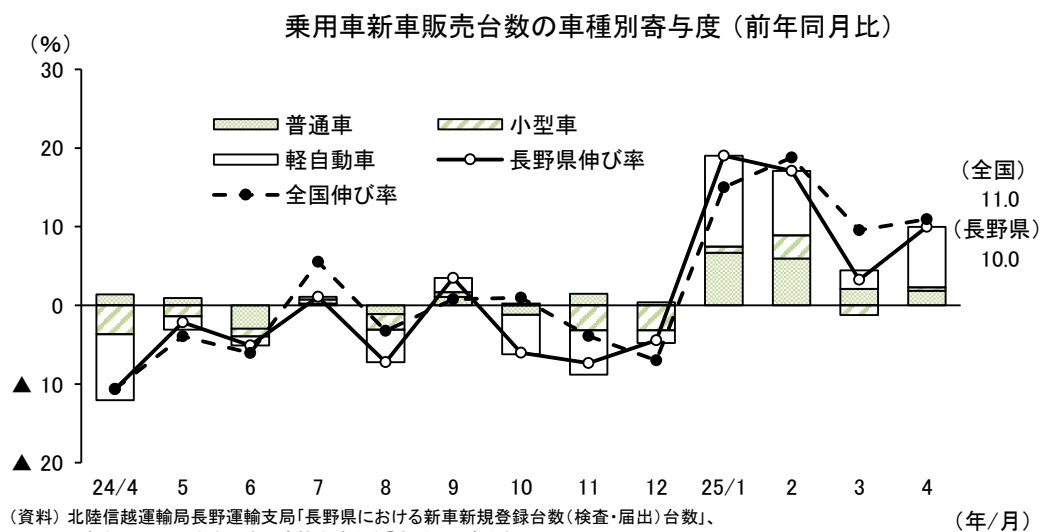
乗用車新車販売は4カ月連続で前年を上回る

- ・4月の大型小売店売上高は、前年同月比+3.4%（売場面積調整前）となり、43カ月連続で前年を上回った。食料品は、コメや生鮮食品等の販売価格の上昇などから、同+4.7%となった。衣料品は、催事効果などにより堅調だった前月の反動から同△9.4%となった。雑貨・その他は、化粧品は堅調だったものの、日用品が一部感染症対策商品の値上がり報道を受けた前月の駆け込み需要の反動減等から同△1.1%となった。
- ・4月の乗用車新車販売は、人気車種でモデルチェンジがあったことなどから、前年同月比+10.0%と4カ月連続で前年を上回った。車種別にみると、普通車は同+4.5%と6カ月連続、軽自動車は同+20.7%と4カ月連続で前年を上回ったほか、小型車も同+1.9%と2カ月ぶりに前年を上回った。



（資料）当研究所「長野県内大型小売店売上高の動向」、経済産業省「商業動態統計」

（注）全国伸び率：25年4月分は速報値



（資料）北陸信越運輸局長野運輸支局「長野県における新車新規登録台数（検査・届出）台数」、

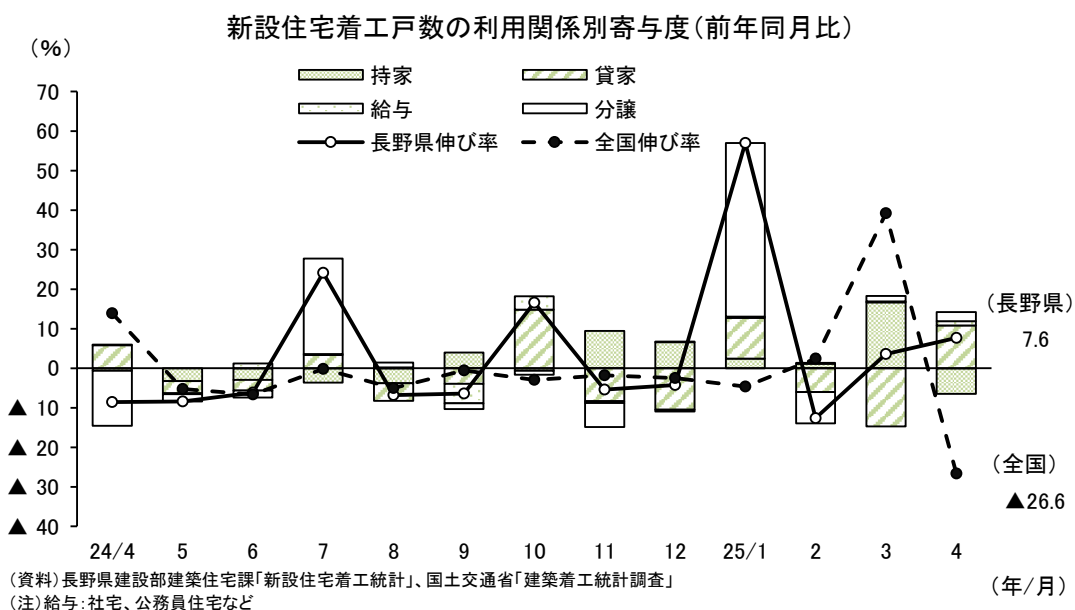
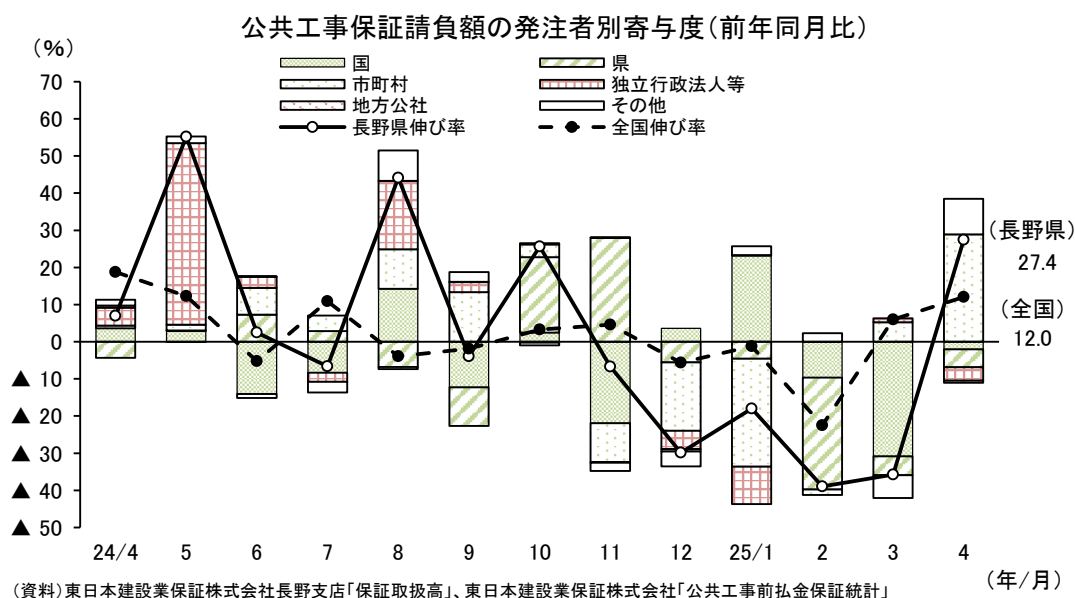
一般社団法人日本自動車販売協会連合会「車種別販売台数」、

一般社団法人全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売台数確報」

（注）普通車：3ナンバー車、小型車・軽自動車：5ナンバー車

公共工事保証請負額は6カ月ぶりに前年を上回る

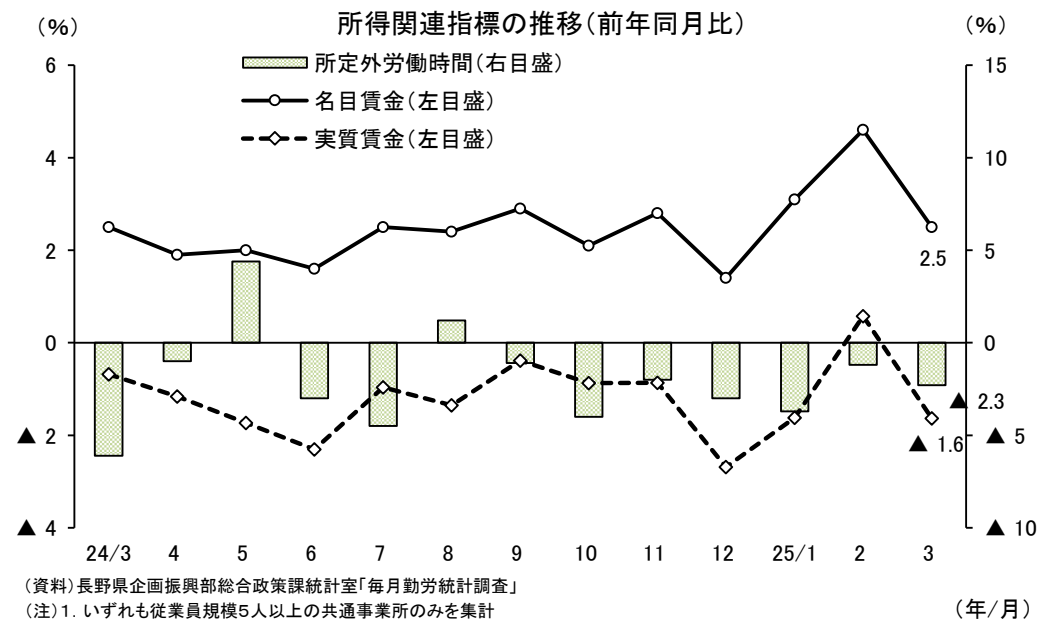
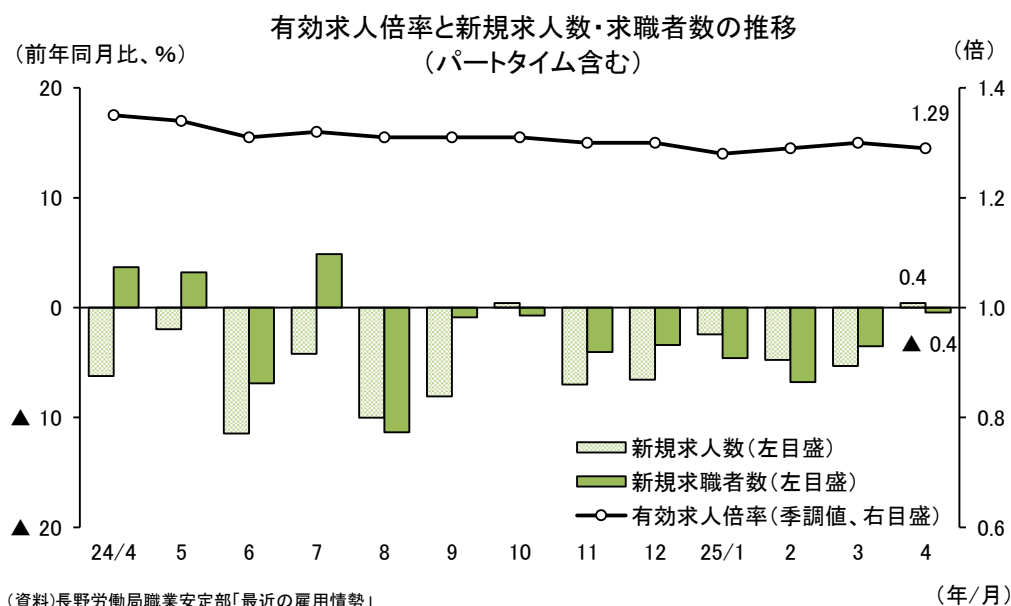
- ・4月の公共工事保証請負額は、前年同月比+27.4%の528億4,300万円となり、6カ月ぶりに前年を上回った。発注者別にみると、国が同△38.6%、県が△12.3%、独立行政法人等が△10.6%、地方公社が△97.6%と減少したものの、市町村が同+155.0%、その他が同+539.0%と増加した。
- ・4月の新設住宅着工戸数は、前年同月比+7.6%の859戸と2カ月連続で前年を上回った。利用関係別にみると、持家が同△10.3%と減少したものの、賃家が同+48.0%、給与が同+450.0%、分譲が同+15.8%と増加した。



雇用

有効求人倍率は3カ月ぶりに前月を下回る

- ・4月の有効求人倍率は、前月比△0.01ポイントの1.29倍となり、3カ月ぶりに前月を下回った。
- ・新規求人数(全数)は前年同月比+0.4%となり、6カ月ぶりに前年を上回った。このうち常用は同+0.5%、パートは同+2.0%となった。主要産業別では、サービス業が同+11.3%、医療、福祉が同+7.3%となるなど6産業は前年を上回ったが、卸売業、小売業が同△7.0%、建設業が同△2.7%、製造業が同△0.7%となるなど7産業は前年を下回った。
- ・新規求職者数(全数)は、前年同月比△0.4%と9カ月連続で前年を下回った。
- ・3月の名目賃金は前年同月比+2.5%と47カ月連続で前年を上回ったが、実質賃金は同△1.6%と2カ月ぶりに前年を下回った。所定外労働時間は同△2.3%と7カ月連続で前年を下回った。



県内地域別・近隣都県別有効求人倍率

有効求人倍率は中信を除き前年を下回る

- ・4月の地域別有効求人倍率(全数)は、北信が前年同月比△0.06ポイントの1.16倍、東信が同△0.11ポイントの1.20倍、中信が同+0.02ポイントの1.29倍、南信が同△0.05ポイントの1.20倍となった。
- ・職業安定所別有効求人倍率(全数)は、須坂が1.43倍と最も高く、次いで飯田が1.33倍となった。
- ・長野県の有効求人倍率は55カ月連続で全国を上回り、順位は前月と変わらず20位となった。

長野県職業安定所別有効求人倍率(実数値)(25年4月)

地 域	北 信(1.16) (前年同月比▲0.06)				東 信(1.20) (前年同月比▲0.11)		中 信(1.29) (前年同月比0.02)			南 信(1.20) (前年同月比▲0.05)		
職業安定所	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曽福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全 数	1.20	1.07	0.94	1.43	1.17	1.22	1.32	1.32	1.09	1.33	1.12	1.17
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.13	▲ 0.14	0.06	0.28	▲ 0.11	▲ 0.12	0.04	▲ 0.03	▲ 0.11	0.00	▲ 0.06	▲ 0.07
うち常用	1.08	1.04	0.91	1.30	1.10	1.20	1.21	1.20	1.03	1.24	0.98	1.09
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.10	▲ 0.14	0.06	0.25	▲ 0.10	▲ 0.10	0.06	▲ 0.02	▲ 0.18	▲ 0.02	▲ 0.06	▲ 0.07

(資料)長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」
(注)実数値とは、新規学卒を除きパートタイムを含む季節調整前の原数値

